

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪府こころ福祉センター(福祉型)	階数	地上1F
建設地	大阪府富田林市大字甘南備	構造	RC造
用途地域	市街地調整区域	平均居住人員	65人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2021年1月10日
敷地面積	21,951 m ²	作成者	大建設 東岡正康
建築面積	3,059 m ²	確認日	2021年1月20日
延床面積	2,805 m ²	確認者	大建設 東岡正康



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 93% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 93% (46 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 93% (46 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
障がいをもつ子どもたちが安心して生活できる環境を提供し、自活に必要な保護、指導などきめ細やかな支援を継続的に実現する施設づくりを行う。また、計画地の緑豊かな自然との調和をはじめ、維持管理のしやすい環境配慮型の施設を目指す。		計画地は既存建物を解体した跡地を利用するものである。解体に伴い既存樹木の伐採が必要となるが、工事範囲の想定、樹種調査の上、樹木保存を計画。また大規模な造成を伴わない施設計画を行い、元の小径を再生する
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
音環境については、自然豊かな土地にあるため、外部騒音よりも内部騒音への対応に注力した。温熱環境については、適切な設備による制御を行うとともに、子どもたちが生活する居室には庇を設けたり、ブラインド内蔵	内装計画において、子どもたちが暮らす家としての設えを中心に、基本設計段階からBIMによる空間情報の共有を行い、仕上げ素材の風合いなどについても表現している。また汚れにくい素材や破損に強い素材を仕上げには選定して	緑豊かな敷地環境を活かし、子どもたちの生活にうまいを与えられる計画を目指す。既存樹木の保存や計画的な植樹による自然環境学習エリアの構築を行う。自然舗装の採用や連続する屋外通路庇が温熱環境改善やそこに
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高断熱、高气密性の確保を行い、建物外皮の熱負荷抑制を行う。平屋でありながら各居室の採光及び自然通風環境を得るための形状による工夫を行いつつ、トップライトを併用することで、更なる自然採光を得ている。その他、高効率設備を採用している。	節水型便器や水栓の採用。リサイクル材料の積極的採用を行う。壁付ラーメン構造を採用しているため内部にもコンクリート躯体が多く存在することで解体分別性が下がる。	平屋であることから風や光による周辺地域への影響は少ない。汚水処理は地区全体での処理施設を有している。一般車両・管理用車両・通園バス・自転車・バイクの適切な駐車及びサービス動線にも配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0125

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	大阪府立こんごう福祉センター(福祉型障がい児入所施設)改築工事						
		建設地	大阪府富田林市大字甘南備						
		用途/区分	病院						
【評価結果】		CASBEE 総合評価					A		
①	CO2削減					3			
②	みどり・ヒート アイランド対策					3			
③	建物の断熱性					5			
④	エネルギー削減					2			
⑤	自然エネルギー直接利用					—			
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
エネルギー消費量の報告						報告しない			
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.2	3		
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	3		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.4	2		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
		技術の名称			考慮事項				
先進的技術の導入									
特に配慮した事項									